

1 高知県大規模災害復興都市計画手引書

(1) 現状、課題

現状

- 東日本大震災では、津波災害からの都市の復興に時間を要し人口減少等の地域課題が加速
- 南海トラフ地震は今後30年間で70%~80%程度の確率で発生が予測

- 風水災害など自然災害の激甚化・頻発化
- 災害ハザードエリアにおいて人命に関わる災害が多発

課題

- 想定される津波災害からの都市の復興を少しでも早く成し遂げ、地域に住み続けられるまちづくりを実現

- 災害ハザードエリアにおける防災・減災対策
- 規制・誘導等を総動員した「事前防災まちづくり」

課題解決に向けて
具体的な事業メニュー、行動手順が必要

(2) 手引書の目的

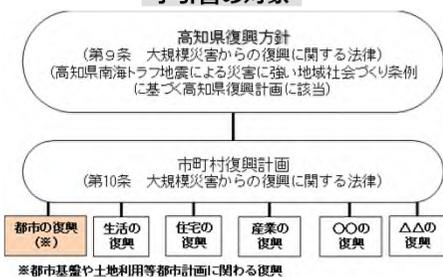
目的

高知県大規模災害復興都市計画手引書は、大規模災害から都市を復興する際の復興整備事業を円滑に進めることを目的として、以下の2点についてとりまとめて解説するものである。

- 都市を復興する際の復興整備事業を進めるうえでの手続き
- 都市の復興への対応力を向上するための事前の取組

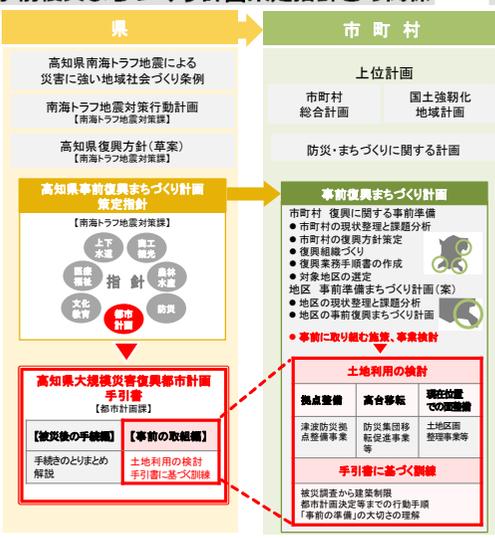
復興の根幹を担う都市の復興を対象

手引書の対象

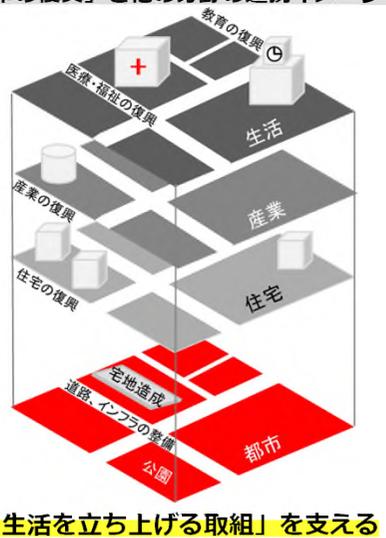


(3) 手引書の位置付け

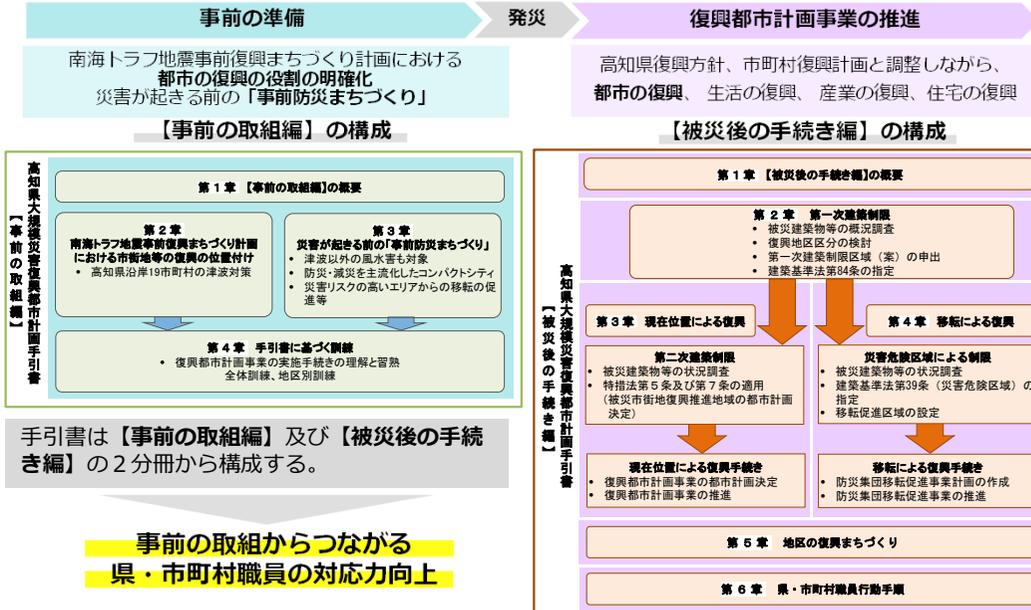
事前復興まちづくり計画策定指針との関係



「都市の復興」と他の分野の連携イメージ



(4) 手引書の概要

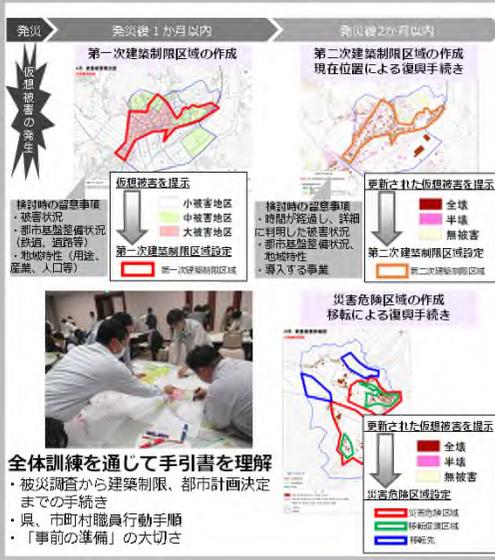


2 高知県大規模災害復興都市計画訓練

(1) 訓練の目的

大規模災害発生後の迅速な都市の復興に向けて、県・市町村職員連携による復興体制の強化、復興まちづくりを進める職員の対応力向上を図る。

(2) 全体訓練



(3) 地区別訓練



～迅速な都市の復興による住み続けられるまちづくりを目指して～